

林分密度管理図を利用した間伐方法の検討

時 光 博 史* 5期 野田 幸 一

広島県の森林の現況は、次のとおりです。

区 分	面 積	構 成 比		
県 土 全 体	85 万 ha	100%		
森 林	62 万 ha	73%	100%	
民 有 林	57 万 ha		92%	100%
民 有 人 工 林	15 万 ha			26%
内VII齢級以下	13 万 ha			87%

人工林のほとんどは、間伐等保育の必要がある時期にあります。

また、民有林の山林所有の状況は、次のとおりです。

区 分	数 量
林 家	11 万戸
林家以外の林業事業体	1 万事業体
1 事業体当たり森林面積	5 ha
保有規模 5 ha 以下の林家	9 万戸

林家の山林保有規模は、零細です。しかも、人工林のほとんどは、拡大造林で造成したものであり、間伐や主伐を初めて経験する林家が多くなります。

森林組合、市町村、県では、このような林家を説得して、間伐を進めています。

職員A「貴方の山は、間伐する時期にきています。間伐してください。」

すると、次のような反論があります。

林家B「間伐すると、雪折れするのではないか。」

「間伐しなくても自然に本数が減って、ちょうど良くなる。」

「間伐しないほうが、年輪がつまって値の高い材ができる。」

「間伐は、今すぐ実施しなくても、少し後でもいいだろう。」

「木は、放っておいても太くなる。」

「君は、仕事だから、後先考えずに、間伐を勧めているんじゃないか。」

*広島県林務部

これに対して、教科書に書いてあるように説明します。

職員A「間伐すると、〇〇になります。しないと、××になります。」

林家B「それは、わかった。では、どれくらい〇〇になるのか。山には植えてからこのかた、金をかける一方だが、更に間伐で金をかけるんだ。それくらい教えてくれ。」

このあたりから、説得するほうも困ってきます。また、ここまで話を聞いてもらえないこともあるので、あらかじめ回答を用意しておく必要があります。

更に、この回答をみて「それは、誇大広告ではないか。」と言われないように、信頼できるデータの裏付けのある資料が必要です。

さて、間伐の実行のために、数量の現れる資料として、現場で最も信頼されているのは、林分密度管理図です。これを利用して、間伐方法を検討し、将来の見通しを持ったうえで、Bさんの疑問にどれだけ答えられるか、BさんにもAさんにも、納得してもらえる説明がどれだけできるか、チャレンジしてみたいと思います。

林分密度管理図

間伐方法：間伐
林分密度：1000
林分年齢：10

林分密度管理図

林分密度：1000
林分年齢：10

林分密度管理図